
魔法先生ネギま！ 例のやつがやってきた？

ハテナーナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギま！ 例のやつがやってきた？

【Nコード】

N8312X

【作者名】

ハテナーナ

【あらすじ】

麻帆良学園にとある人物がやってきた

そいつは裏では有名な最強防御魔術師

とりあえずキャラ設定その1（前書き）

映画化記念（一ヶ月以上経過しているが）なので投稿

とりあえずキャラ設定その1

八樹^{はちじゅ} 26歳 誕生日 11月3日

本編の主人公 無詠唱で魔法を使えるが本職はあくまで剣士

近衛木乃香と桜咲刹那とは知り合い関係 何故そうなったかは後々

魔法学校に通っていたが五ヶ月で中退

その後独学で魔法を覚える

だが中学生になってから6年近く魔法を封印したためかなり弱くな
った

出身は岡山県 瀬流彦先生とは結構仲がいい

ちなみに魔法は777個覚えているが600個はまったく役に立た
ない魔法である (たとえば白紙を一瞬で黒くする魔法とか)

ハテル・テル 誕生日 10月29日

こんな名前だがこれでも日本人そして八樹の幼馴染

独学で魔法を覚えたある意味すごいやつ

かなり強力な炎魔術師でエヴァンジェリンに匹敵する強さを持つ

魔法使い連合会議？（前書き）

P C 不調のため短め

魔法使い連合会議？

世界樹前 六時ごろ

瀬流彦SIDE

え〜と今日から配属される魔法使いが一人きたみたいだから

だけどこんな時期に珍しいね もうすぐ期末テストが始まるのに

まあ僕はたいした魔法はつかえないけど 配属される人はかなりすごい魔法使いらしい

ちなみにここには今は人払いの札を貼っているから魔法関係者以外はだれもいない

「え〜 さてこの学園にやってきた魔法使いを紹介するかの」

学園長先生がやってきた つれてこられた人は僕の知り合いのようだね

「では自己紹介を」

「あゝ あゝ 俺の名は八樹だ とりあえず宜しくお願いします」

彼の名前を聞いてみんなが騒ぎ出す そりゃあ彼は有名人だからね

特に桜咲さんが驚いていた　まあ彼女は八樹とは知り合いだったらしいからね

「では今日はこれにて解散じゃ」

学園長の言葉によつて解散　人払いの札もなくなつたようで生徒たちが

わらわらと集まつてきた

学園長室

八樹SIDE

ここは学園長室　何故呼ばれたかつて？　バイト生活とか色々としんでいるときに突然

「この学園で教師をやってくれんかの？」　って携帯に電話がかかってくるんだぜ？

おまえはどこで俺の携帯の番号を知ったんだよ

ちなみに学園長室には俺と学園長そして高畑先生の三人がいる

高畑先生は魔法界ではかなりなやつだったらしい

「して八樹君には2・Aの副担任をやってもらうとする」

「まあかまいませんよ」

「あと何か得意科目とかはあるかの？」

「国語以外なら基本得意ですが 教えるとなると数学以外は無理です
すね」

国語以外は毎回満点なんだよな 国語は半分くらいだが

「なら数学の教師になってもらうかの」

「了解」

こうして俺は数学担当の2・A副担任となった 高畑先生は空気だったけど

初授業？

八樹SIDE

ときはとんで授業当日

「いよいよですね」

「まあそうですね 変わったクラスだと瀬流彦先生から聞きましたし」

ちなみに中等部女子2-Aのやつらに知り合いは少しいるんだよな

ちなみに一緒にきてくれたのは高畑先生 Thank you だな

9

いよいよ教室 ドアには黒板消しが

「ハハハこんな古典的な罠があるとはな……………」

隙間から覗いてみると明らかに黒板消しが頭に落ちてそれで動転してロープでこけさせてバケツに頭が入って教卓までくるくるなつてぶつかり生徒に笑われるか……

ひどいクラスだなおい！

「まあ こういうクラスだからねウチは」

とりあえず黒板消しは取っておいて

ガラガラガラー

龍宮真名SIDE

噂の魔法使いの教師が来たか………

黒板消しの罠を回避しロープをジャンプでかわしそのまま教壇につくとは

なかなかやるようだな

「あゝ この件については置いて自己紹介をしておこう
名は八樹 一応数学教師となった このクラスの副担任であって教
師免許はない 以上」

そんなことを言っているのか……？

「質問はSHR内までなら聞いてやる 今のうちに聞いておくこと
だな」

そういつた瞬間クラスは騒がしくなった

先生はどこからやってきたかとか

彼女はいるのかとか

好きな食べ物とか嫌いな食べ物とかなどなど

ま、私は興味はないがな

八樹SIDE

チャイムが鳴り とりあえず俺は教室を出る 一時間目は高畑先生

が授業だからな

俺は2 - Fだけど 2 - Aは五時間目だな 授業はこの二回だけ
楽だな

明日は全時間だけだな

ま、がんばるか

二期期末テスト（前書き）

次回くらいにネギ登場予定

そして次回くらいから真面目に書こう

二学期期末テスト

八樹SIDE

時は飛んで 期末テスト一週間前

予想通りだがみんなやる気なし

ついさつき小テストを行い採点が終わった

結果は一位は超鈴音の100点

二位は葉加瀬聡美の99点

三位は雪広あやかの98点

四位は宮崎のどかの96点

五位は朝倉和美の95点

六位に近衛木乃香の92点

ここまでが九十点台

ちなみにワースト6は

桜咲刹那とZazie Rainydayの42点

ギリギリ欠点じゃないレベルだな

のこりはバカレンジャーと呼ばれている5人衆

一番悪いのは神楽坂明日菜だが

まあこいつは高畑先生の補習目的でわざと悪い点数を取っているとか……

それはいいとしてこのままだと最下位確実

ま、最下位でも怒られたりはしないと思うし気楽にやろう

「今更だが　せめて最下位脱出のため今からやる小テストで60点以下のやつは放課後鬼の補習を行う
文句は聞かんぞ！」

ええ〜！？と上がる声　そう言うやつにかぎって勉強ができないのが普通だが

成績優秀の朝倉とか一応合格レベルの鳴滝姉妹もええ〜！？といていた

お前らレベルなら合格できると思うから大丈夫だ

「なら配るぞ 結果は高畑先生配ってくれる」

そうして配る

ちなみにみんなのテスト中に俺は何故か社会のテストを作成

担当の先生が俺と入れ替わりで辞めやがったから変わりに俺が作ら
されるハメに

そして放課後

意外と合格したようで残りはバカレンジャーの5人衆だけだった

「えっと これより補習を行う 二十点満点のテストで八割以上の点数で合格だ できるまで付き合っからな」

「え〜つと先生！」

「なんだ？ 佐々木よ？」

「八割って何点以上のことですか？」

割合くらいわかれよ 小学生レベルだぞ！？

とりあえず言えることは こいつらを底上げするのは大変だということだ

その後期末テストが行われてからうじてワースト3位に滑り込んだ

一学期期末テスト（後書き）

次回からは真面目に……………かけると思う

ネギ登場

八樹SIDE

2 - A天井裏

三学期開始早々天井裏にいる2 - Aの副担任

何で天井裏にいたって？

どうせ2 - Aでは罨が張られるんだし

新米教師にかかってもらおうという考えだ

たしかサウザンドマスターの息子だったはず

ちなみに冬休みの間は生徒と仲良くなる努力をした

一部以外は仲良く話せるレベルに

あとは遠当での練習だな がんばって俺の知り合いレベルまで練習した

覗くために天井に穴を空けた 後で直すけど

「失礼しま……」

来たようだ しづな先生の同伴で

そして黒板消しの罨がやってくる

ポフツ 一瞬止めて結局かぶってしまったようだ

「あらあら」

「ゲホゲホ いやーあはは なるほどゲホ ひっかかっちゃったなあコホ」

そして第二の罨 「へぶっ!？」 ロープでこけて「あぼ!」 水入りバケツが落ちて「うわあああああ」 矢が飛んできて

「ギャフン」 教卓に激突と

『『『アハハハ!!!』』』

クラスの大半が笑っていた

「えっ?」

「あれ?」

ちなみに新任教師は数えて10歳だったはず

「えーっ! 子供!？」

「君、大丈夫!？」

「ゴメン！ てっきり新任教師だと思って！」

こいつが新任教師なんだけどな

「いいえ その子があなたたちの新しい担任よ 八樹先生は副担任のままだけど

とりあえず自己紹介をしてね ネギ君」

「ハ、ハイ」

たしかこいつはネギ・スプリングフィールドで得意魔法は風だったはずだ

「え、えと あの……ボク……ボク……」

今日からこの学校でまほ……英語を教えることになりました
ネギ・スプリングフィールドです

3学期の間だけですけどよろしくお願いします」

魔法と言いかけたことに関してはスルーする

「キャアアアア！」

「かわいい！」

一応歓迎されてるようだ

ネギ歓迎会（前書き）

そろそろ魔法を出さないとな

ネギ歓迎会

八樹SIDE

とりあえずネギ先生の授業はg d g dになった

そしてネギ先生の歓迎会用のクラッカーを買いに行かされた

生徒にパシリされる教師とか聞いたことないぞ

一応買ったからいいけどさ

「ほらよ 買ってきたぞ」

「サンキュー」

そして一部の生徒にタメ口で話されるようになった

ちなみに今のは明石裕奈だけど

ちなみにネギ先生はさっき見たし もう来るだろう

「あとちよつとで来ると思うから準備しとけよ!」

『『『おおー!!--!』』』

数分後

「早速実行よ 荷物とつてくるからちよつとそこで・・・」

何を実行するんだよ？

『ようこそ！』

『ネギ先生！』

ようやく主人公であるネギ先生登場

「あ……そーだ 今日あなたの歓迎会するんだっけ…… 忘れてた
！」

「えー！！！」

えー！！！！はこつちだよ 忘れんなよ大事なことにさ

歓迎会は順調に進んだ

肝心のネギ先生は高畑先生に読心術を使ってたようだが
読心術はきかないと思う あの先生

次の日の夜

t r r r r r r r r

「はい こちらは八樹」

『八樹が、ようやく倒したぞ お前の家の近くにいたドラゴン』

「おお やつとか サンキュー ハテル」

ハテルと俺のもう一人の幼馴染のJ・Mに上級種の龍を倒してもらった
ジェンソン・マルクス

最近俺の家（当然魔法世界の）に龍が大量にやってくるんだよね

というわけでこの二人を魔法世界に送り込んだ

冬休みに龍宮や刹那を連れて行ったんだけどまだいるようだな

ちなみにJ・Mは最上級の回復魔法を覚えているからあつちの世界では最強の治療師と呼ばれている

強さAのネギ先生レベルだけどね あいつ攻撃技ほとんどないし

ちなみに俺はS BでハテルはS C

『とりあえず しばらくしたら旧世界に戻るぞ』

「おお　いつぐらに帰れるか？」

『お前らの学校で修学旅行が始まるくらいの時間かな？』

「遅いな！？　おい！」

惚れ薬編？

放課後

八樹SIDE

そこらへんを歩いていたらネギ先生発見

声をかけようと思ったたら図書館探検部の三人が先に声をかけた

ちなみに宮崎のどかはたしか恥ずかしがりやだったが木乃香嬢によつて俺は話せるようになった

ちなみにかなり離れているから会話は聞こえないので近づく

「ふう どーしょ ん？」

何かが出てきたようだ あれはたしか魔法の素丸薬七色セット大人用

「これさえあればホレ薬みたいなのが作れるかも！！」

惚れ薬は犯罪なんだけどな どうでもいいしほっておこう

数分後 学園の警備をすることに

そして2 - Aの教室を覗くと神楽坂によってネギ先生がホレ薬を飲んじやった

「ネギ君ってよく見るとなんかスゴクかわえーなー」

どうやら木乃香嬢が一番の被害者となった

「ちよちよつと何をやってるんですかこのかさん!？」

いいんちようが第二被害者になりそうだ まあこいつはもともと愛してるそうだからいいけど

「先生どうぞコレを……」

どこからか花束を出した

ちなみに何故か神楽坂には効かない

こいつアレがあるのか？

「はいぬぎぬぎしましょうね」

「ああ やめっ やめてくださいーっ!」

これがいわゆる自業自得というやつだな

そしてカオスになってきそうだから退却 とりあえず図書館あたりに

図書館前の扉

鍵がかかっているね

そしてネギ先生に先を越されてしまった

「きゃあっ」

転落？

「いてて だ……大丈夫？宮崎さん」

「「あ……」」

「よお 神楽坂よ 中が大変なことになってるよ」

「ええ！？ どんなことに!？」

「もうちよつとでキスするだろうな 惚れ薬の効果が切れるまで
ま、あの量ならあと少しでできれると思うよ」

「へえ 結構詳しいのね」

「そりゃあ 魔法使いだからさ」

「えええ！？」

「いや驚くことじゃないだろ？ ネギ先生だって魔法使いだし そ
れよりはやく助けてやれ」

遠当て練習（前書き）

オリジナル物語　そしてオリジナル技を使用

遠当て練習

冬休み中

八樹SIDE

俺はとあるやつらに言わなければいけないことがある

「ゴハア!？」

開始早々殴られた 遠当てで

こんなことできるのは俺の知ってるやつだと

豪徳寺か中村のどっちかだ

「おい！ だれだ今のは！ 豪徳寺か中村だって事はもうわかってるぞ」

必殺 影移動

「ほい 到着」

「おおい！？　どこから来たんだよ！？」

「というわけで　どっちがやった？」

「豪徳寺だったはずだが」

「ほうほうそうかそうか　なら覚悟しときな　烈空弾！」

俺の作った遠当てその4　命中率が高めだが大して強くない　ちな
みに8つ作った

「ぐほあ！？」

どうでもいいが何故こいつらとつるんでいるかと言つと

遠当てその8を製作中に中村の遠当てを食らってしまい2秒意識が
飛んだ

そして遠当て仲間ということで仲良くなった

「っ！ 痛えな 漢魂！」

「負けるかよ！ 砲劉霸！」

遠当てその1 威力重視のため 意外とあたらないが今回は当たった

「へえ やるねえ 昨日は命中率が格段に低かったのにな」

「修行してるんだよ ちゃんと」

こっちの一時間が向こうで一日になる別荘で

「というか明日ちょっと旅立つからそれを伝えたいだけだ よって
しばらくは練習に参加しない」

「おい マジかよ！」

遠当て練習（後書き）

八樹「第一回オリジナル技解説を始めるぞ！」

豪徳寺「おおー！！」

山下「おー」

八樹「ちなみにメンバーは俺プラスこの二人とゲスト一人だが今回は第一回だしまだあの女子たちとほとんど接触してないからゲストはなしだ」

山下「とりあえず遠当てはスルーして影移動の解説をしよう」

八樹「これはまあ 瞬動の下位技だな」

豪徳寺「影のないところからあるところにししか移動できないしオマケに夜はほとんどつかえないからな」

八樹「とりあえず今回は解説終了 中村や大豪院は後々に出ると思うよ」

八樹の魔法、武術設定

八樹「第二回オリジナル技解説を始めるぞ！」

豪徳寺「しかも拡張版だってよ！」

山下「早くない！？」

八樹「だってまだ魔法でてないんだぜ？」

山下「たしかにそうだけど……」

豪徳寺「じゃあ　まずは魔法の紹介だ」

魔力　大体木乃香より少し少ないくらい

主に使う魔法は防御系

そして呪文詠唱時によく噛んでしまうので無詠唱主義

始動キーは　リモート・フォート・ローレック

適当に作ったので忘れかけている

攻撃魔法はほとんど使えない　魔法の射手も15本が限界

本人曰く弱点は雷系魔法

得意魔法は炎

銃も龍宮真名ほどじゃないがかなりの腕前

防御系魔法

真空壁

炎系魔法しか防げないどうでもいい魔法

亜空の筒

相手の攻撃をそのまま返す強い技だが何故か氷系魔法には使えない
あと魔法にしか使えない

絶対防御

ほとんどの攻撃を防げる最強？な技 しかしこの技を展開中はほか
の魔法を使えず
自分も動けない

などなど

豪徳寺「魔法の紹介少ないな！」

八樹「こんくらいしか思いつかなかったんだ」

山下「じゃあ次は武術系だな」

遠当て全8種類

説明省略

爆砕砲

右手に気を溜めて一気に放つ技
運がよければ学校ひとつくらいは焼け野原にできる

真硫連撃

爆砕砲の左手バージョン
こっちのほう若干強い

スロー速拳

別名 遅痛拳

とてつもない速さで相手を殴る
この技によるダメージは2秒後に発生する

これは居合い拳を参考にして作った

などなど

豪徳寺「また短っ！」

八樹「これくらいしか思いつかないんだってさ」

山下「ひどい作者だな　というかゲストはどうしたんだ？」

八樹「まだほとんどのやつと接触してないからまだなしだ」

豪徳寺「期末テストでかなり空いてしまったからな　ちなみに昨日終わったそうだ」

八樹「凡ミスばかりしたって嘆いたけどね　まあおまけとしてハテルのキャラ設定とJ・Mの紹介でしよう　まずはハテルのほうだ」

魔法系

炎系まほうしか使えない

魔法の射手は50本を無詠唱でいける（当然炎限定）

始動キーは　ファイヤー・ロック・ホート・マステギー

八樹と仮契約をしている
称号は無限の炎の戦士

技

ヘルファイヤー
地獄火

一応本人の中で最強技

紫色の炎を手に出して投げつける 最大は直径100mだが普通は
そんなに大きくない

炎の壁

風系魔法を使われると一瞬で消えてしまうがそれ以外は基本防げる

J・M

それでも魔法世界では超有名な治療師

基本どんな怪我でも治せるが打撲だけは直せない

あと当然ながら死人を蘇生するなんてできるわけないよ

雷の下位魔法も使えるがあまり強くない

八樹と仮契約をしている

称号は回復のスーパースター

始動キー ヒール・ヒーラック・ホーリック

技は省略

八樹「以上 紹介終了！ 次は多分吸血鬼編だな」

山下「ずいぶんと飛ぶんだね」

八樹「どうせ学年末編はネギのやつが勝手に解決させちゃうんだし
木乃香編は後に番外編としてやることにしたし」

豪徳寺「んじゃな」

桜通りの吸血鬼（前書き）

八樹「うわ やっべ！」「」

豪徳寺「どうしたんだ？」

八樹「魔法より剣術の方が得意なのに紹介し忘れたという」

山下「じゃあ紹介しないと」

主に使用する武器

柳葉刀 クレイモア 長柄刀 メールブレイカー フランベルジェ

一週間だけ神鳴流に入っていた

斬空閃

空間を切る危険すぎる技

真空刃

適当に作ったかまいたちを相手に投げつける

トルネードソード

両手に剣を持って回転し、竜巻を起こす
若干風の魔法を使用

などなど

桜通りの吸血鬼

八樹SIDE

新学期の夜

いよいよ3年　ネギの野郎が正式な担任となり俺は副担任から降ろされた

まあ数学は教えるけどね

それはどうでもいいけど問題は吸血鬼の事件なんだよな

記念すべき最初の犠牲者はまき絵か

犯人は間違いなく真租のエヴァンジェリン・A・K・マグダウエルだろう

俺はあえて微妙なアタナシアと呼んでいるが　とある訳があつてね

そして桜通りに来ると結構力オスなことになっていた

「何があつたんだよ？」

ほぼ裸ののどかと木乃香嬢と明日菜（名字言いくいから名前で呼ぶことにした）

おそらく武装解除されたな　ネギのやつはレジストはしたようだが

「ええつとそれが……」

とりあえずのどかを明日菜、木乃香嬢が部屋に運んでくれた

俺は一応ネギの野郎の救出へ行くことにする

とある建物の上

「おまえの親父……すなわち……『サウザンド・マスタ
ー』のことか ふふ……」

ああ、ナギさんのことか さりげなく俺の先祖の七樹が紅き翼の一

員だったりする

もう死んだけど 紹介はのちのちにする

「あと 八樹！ 隠れてないで出て来い！」

おおっと 俺の存在はばれてるようだった

「へいへい でりゃあいいでしょ」

「ええ！？ 八樹先生って「魔法使いだから安心しろ サウザンドマスターの息子のネギ・スプリングフィールド あと先生はつけずに気軽に八樹とでも呼んでくれ」どうして父さんのことを！？」

「それについては後に話す それよりその吸血鬼をどうにかしないといけないんじゃないか？」

「え……えつと……とにかく！ 魔力もなくマントも触媒もないあなたに勝ち目はないですよ！
素直に……」

いや、こいつには茶々丸がいたから今のお前には無理だろう

「……これで勝ったつもりなのか？」

上の屋根から茶々丸登場

「さあ お前の得意な呪文を唱えてみるがいい」

魔法使いの弱点 呪文詠唱中に攻撃を食らうと魔法を発動できない

「風の精霊11人縛鎖となりて敵を捕まえろ」

「ふ・・・」

茶々丸が動く

「サギ・・・あたっ」

茶々丸によるデコピンで魔法が発動できず

「あたた？ えっあつれ！？ き、君はウチのクラスの・・・」

「紹介しよう 私のパートナー 3-A出席番号10番 魔法使いの従者 絡繰 茶々丸だ」

意外と最近にできたロボットだそうだが その前はチャチャゼロだったが あいつ今は動けないはずだ

「え・・・なっ・・・！？ ええっ！？ 茶々丸さんがあなたのパートナー！？」

「そうだ パートナーのいないお前では私には勝てんぞ」

俺はいるけどね

「な・・・パ、パートナーくらいなくなつて 風の精霊11人・・・」

ネギが呪文詠唱をした瞬間茶々丸が動く

そして普通に頼ったをつねられている

「見事なやられっぷりだなネギよ」

「元々『魔法使いの従者』は戦いのための道具だ

我々魔法使いは呪文詠唱中 完全に無防備となり攻撃を受ければ呪文は完成できない」

「もつとも俺は無詠唱主義だし 従者がいなくても十分やれるからいいけど

本来はそれを盾となり剣となって守護するのが従者の本来の使命だそうだ」

「つまり・・・パートナーのいないお前は我々3人には勝てないということさ」

「おい！ 勝手に俺を入れないでくれ あくまで俺はお前の敵だぞ」

「フン 冗談だ」

つつても俺は茶々丸に勝てたことがないので抵抗はできんのだが

「申し訳ありません ネギ先生」

茶々丸がネギの首をつかむ ちなみにアナタシアはナギさんに登校地獄ののろいをかけられて

15年も中学生をやっているそうだ かわいそうに まあ俺もがんばれば解けると思うけど

そうこう言っている内にアナタシアがネギの血を吸い始めた　さあ
てどうする？

「いいのですか？八樹先生？」

「なんだ？茶々丸」

「ネギ先生を助けなくても」

「いや大丈夫だろう　ほらな」

そっいつて後ろを指差す

「こらー！　この変質者どもー！　ウチの居候に何すんのよー！」

明日菜登場　たしかアナタシアは魔法障壁を常に展開してなかった
っけ？

やっぱり明日菜はアレをもってるのか？

「か、神楽坂　明日菜！？」

「あっあれー？」

結構驚いてるようだ

「あんた達はウチのクラスの・　　ちよっ　　どういことよー!？」

そりゃあこの二人が犯人だからね

「ま・・まさかあんた達が今回の事件の犯人なの！？
しかも二人がかりで子供をイジめるような真似をして・・・

答えによつてはタダじゃすまないわよ！」

「ぐっ・・・よくも私の顔を足蹴にしてくれたな神楽坂明日菜・
・ お 覚えとけよ」

どっかの悪役が言うようなセリフを言つてアナタシアと茶々丸は帰つていった

八樹の父の過去（前書き）

またまた少し飛んでエヴァが風邪と花粉症になったところらへんからスタート ミスによって途切れたから 20時より再更新する

八樹の父の過去

八樹SIDE

エヴァンジェリン、茶々丸家

なんでこんなところにいるかって？ そりゃあとあるバカが風邪を引いたからだ

ちなみに何故か逮捕したはずのエロガモがやってきてネギのやつも完全復活した

何があつたかは知らんが

「八樹先生その薬をとってください

「おおっと ほらよ
「

…… カランコロン

ん？ 誰か来たのか？

「なんか誰か来たし出てくるわ」

「誰がいませんか？」

来訪者はネギのようだ

「よお　ちなみにエヴァンジェリンは風邪＋花粉症だからな　だろ
？　茶々丸」

「ええ」

「ええ！？　不老かつ不死の彼女が風邪なんてひくわけが……」

いや、アナタシアは今は普通の10歳と同じだし

「そのとおりだ」

普通に風邪引いてるよな？　ハアハア言ってるし

「よく一人できたな　魔力が十分なくても　貴様ごときひよっこを
くびり殺すコトくらいわけはないのだぞ？」

かなり自信はあるようだ　が魔力も封じられてるし風邪だし無理だと思
う

「エ　エヴァンジェリンさん！？」

ネギのやつがアナタシアに何か渡す　ん？　果たし状……？

「なんだそれは？」

アナタシアのやつには分からなかったようだ

「はっ 果たし状ですっ！ 僕ともう一度勝負してください！」

いやいや、はつきり言って今のお前がパートナーなしで勝てる確率は1・3%だぞ

「あ あとちゃんとサボらずに学校に来てください！ このままだと卒業できませんよっ！」

「だから呪いのせいで卒業できないんだよ まあいいここで決着をつけるか？ 私は一向に構わないが？」

「……いいですよ そのかわり僕が勝ったらちゃんと授業に出てく
ださいね！！」

そういつてすぐにアナタシアは階段から落ちた 無理をするなよ

八樹の父の過去（後書き）

諸事情でここまで

八樹の父の過去はまた今度ということで（前書き）

だれか感想を書いてください　なんか0件が悲しいからください

そしてまた飛んで決戦エヴァンジェリン　三巻も今回で終わり

というか早く修学旅行編に行きたい

どうでもいいけど最近M i n e c r a f tの動画を見てやりたいけどカード持っていないから買えないということできない

八樹の父の過去はまた今度ということだ

八樹SIDE

とある橋

夜8時あたりに学園全体は停電となった

アナタシアが動くのは今だろう

学園結界の封印が解ければかなり強くなる

と思う

たしかネギのやつは捕縛結界を仕掛けたようだが 前に俺がこいつらと戦ったときに

同じ作戦を使って結界解除プログラムとか発動されて………なことになる

「こおる大地!!」

おわつと もうここまで来たのか

とりあえず空中から戦いを見せてもらおう

「あぐっ」

明らかにネギの方が劣勢だ

「ふ・・この橋は学園都市の端だ 私はのろいによって外には出られんピンチになれば学園外へにげればいい か」

そついやここは学園都市の端だな

「・・意外にせこい作戦じゃないか え？ 先生？」

こりゃあ 助けたほうがいいかな？

ええつと始動キーは っとやべ忘れた！

「な！？ こ これは・・捕縛結界！？」

そついや捕縛結界仕掛けていたんだな 無駄だけど

「や・・やった っ エへへひっかかりましたねエヴァン
ジェリンさん！」

おまえにしては立派な作戦だと思うがこれじゃアナタシアには勝てんぞ

「もう動けませんよエヴァンジェリンさん これで僕の勝ちです
さあ おとなしく観念して 悪いことも もうやめてくださいね！」

「…………やるなあぼうや 感心したよ ふ…………アハハハハ」

アナタシアが笑い出す

「な 何がおかしいんですか ご存知のようにこの結界にハマれば簡単には抜け出せませんよ！」

「そうだな 本来ならばここで私の負けだろう 茶々丸」

「ハイマスター」

おそらく結界解除プログラムを作動するのだろう こりゃあ助けに行かないと

だが始動キー忘れたし とりあえず体術と気でなんとかするか

「コラ 待ちなさい!!」

どうやらパートナーになつたらしい エロガモ（オコジョ）から聞いた話によるとね

「フン来たか ぼうやのパートナー 神楽坂明日菜」

「カモ！」

「合点 姐さん！ オコジョフラッシュ!!」

とりあえず茶々丸を切り抜ける明日菜

俺はその間に下におりる

「フン たかが人間が私に触れることすらできんぞ」

だがしかし 明日菜の蹴りはヒットした

やっぱりアレを持っているとみて間違いないだろう

とある柱の影

「どうする？ 一応気配を消す魔法を使っているが早くしないと気づかれるぜ？」

とりあえず二人と一匹？を柱の影に連れてきた

「アスナさんごめんなさい僕…… 僕 アスナさんに迷惑かけないようにつて一人でがんばったのに………ダメでした」

「ったく 子供なんだしもう少し頼ってもいいと思うのだが 特に俺とかさ お前と同じ魔法先生なんだしさ それに明日菜だって自分からきたんだし 迷惑とは思ってないだろ な？」

一応明日菜に同意を求める

「そうよ 私が来たくて来たんだから迷惑でも何でもないの！
ホラ 協力するからチャッチャと問題児をどうにかするわよ！」

とりあえず協力してくれるようだ

「で……どうするの？ネギ」

「アスナさん……」

とりあえず仮契約するんだろうし魔方陣でも書いておこうか

たしかこうやってこう書いてこうやって……………

「お願いします！ アスナさん 僕 あの人に勝たなきゃ！」

「そーこなくっちゃ！ 兄貴 では姐さん！！」

「一応見ないでおくから勝手にやってくれ」

これで一応契約更新したらしいがこんなに光るんじゃああの二人には気づかれるよ

「むっ……そこか！！」

そして二人は飛んでいた

「どうしたばーや？ お姉ちゃんと八樹が助けに来てくれてホッと

一息か？」

「いや、俺はどちらかというと傍観者だし 最悪の場合は助けるが」
いよいよ戦いが始まる

「契約執行 90秒間 ネギの従者 『神楽坂 明日菜』……！」

契約執行 ま、普通はそれを使うよな

ネギとアナタシアは普通に魔法合戦だ

そして茶々丸VS明日菜はというと

想像以上に明日菜が強くてほぼ互角の戦いを繰り広げている

「さて おまえはネギとエヴァンジェリンのどっちが勝つと思う
カモよ？」

「ううう 俺たちはネギの兄貴にけるぜ そういう八樹の兄貴は
どっちでい？」

「俺もネギのほうと言いたいが賭けが成立しないからエヴァンジェ
リンに賭けるわ」

「闇の吹雪！」

「雷の暴風！」

気が付けばお互いの使える最強のが使われていた

俺はアナタシアが勝つと思っていたが　なんとわずかの差でネギの方が僅差で勝っていたようで

雷の暴風がもろにヒットする

「やりおったな　小僧・・・　フッフ　期待通りだよ　さすがはやつの息子だ・・・」

アナタシアはまだ戦えるようだ……………が

「おい　茶々丸　たしか停電は予定より7分27秒早くなったはずだが…………」

「…いけないマスター戻って!」

バシャバシャバシャ

停電が復旧しやがった

このままだとアナタシアおぼれるぞ

助けに行かないと

「ど　どうしたの!?!」

「停電の復旧でエヴァンジェリンの封印が復活した　魔力がなければヤツは十歳のことも同じだ　おまけに泳げないし」

茶々丸と俺が助けにいくこうとするが先にネギがたすけに行ったようだ
そして杖でとんでなんとか助けられたようだ　一応よかったよかった

「エヘヘ　さあこれでホントに僕の勝ちですよ　もうこれで悪い
ことはやめて授業にもしっかりてもらいますよ！」

「……わかったよ　確かに今日のはひとつ借りだな」

「よし　名簿のところに僕が勝ったと書いておこう」

どこから出したんだその名簿は　それに洗脳した運動部四人に脱が
されたはずだが　生き残っていたのか

まあ　とりあえずは一件落着だな

修学旅行初日 その1（前書き）

久しぶりに投稿なので色々ぶっ飛んでいます

修学旅行初日 その1

八樹SIDE

まずここでやるのはこっちに帰ってきたとか言っていたハテルやJ・Mに会うことだな

基本はネギ先生の護衛だが流石にこんな大勢いる中で敵が襲ってくることはないと思う

ちなみにだが三名が欠席となった 相坂さよは自縛霊だからいけないし(がんばったらつれてこれたが時間がなかったので無理でした)あとはまあみんな分かるだろうし省略

ちなみに一日目はみんなで一斉に清水寺を見に行つて後は自由だとか

俺は多分予定はないしいけるだろう

そしてみんなが清水寺を見学中に音羽の滝にでも行ったらなんか上の方に酒の入った樽があつた

「何故あるんだ？」

幸いにも利用者はいなかったようで一応除去した

しかも狙つてるように縁結びの方に

??? SIDE

くっ！ ここはどこだよ！？

ああ 空のだったな 我は………我？ いやいやわいは八樹の使い魔のドラゴニア・ナウムレス

ドラゴアって呼んでくれよな！

あと一応竜族の子供だ 一人称はわい二人称はユー そいで今はハテルとかJ・Mとかいうやつらに旧世界

につれてこられたって訳さ

「あー残念だがお前のSIDEもう終わりだからな」

「ハア！？ ちょっとどういうことだよ！ ハテルっち！」

八樹SIDE

ホテル嵐山

ちなみにどうでもいいがホテル嵐山は実在する

くわしくは各自で調べてくれ

『ひゃああ〜っ』

ん？この声は木乃香嬢の声？

まあ女子風呂だし刹那が助けしてくれると思うから放っておこう

今日は特にやることがないから刹那と木乃香の過去話でもするか

絵本を読む風に

昔、昔、あるところ（京都ですよ）に近衛家がありました

その屋敷はとでもかくていいんちようの別荘レベルの大きさでした
そこに木乃香というヤツがいました

ったくあの堅物からこんなかわいいのが生まれたんだよ？ と、ツ
ツコミたくなるくらいにきれいなお嬢さんでした 日本ではこうい
う人を大和撫子というんだよね

そしてとある日に神鳴流から刹那というヤツが来ました

コレがいわゆる運命的な出会いってやつさ ま、俺もいたんだけどね

木乃香嬢にとって刹那と俺は初の友達だったわけだ

刹那は剣道をやっていて恐い犬とかを追ひ払ってくれたり危ないとき
は守ってあげたりとかなりいいやつだ

今も守ってるんだけどね

そんなある日 木乃香嬢が川でおぼれてしまい刹那が一生懸命になつて助けようとした

しかし二人とも川でおぼれてしまつて 最終的には俺が助けた

「ったく 大丈夫か？ 一応何故か毛布をもっていたから良かったが……………」

このとき何故か毛布を持っていたんだ

「守れなくてごめんこのちゃん ウチ もつとつよおなる」

まだ子供だしそこまで強くならんでもいいのだがなとそのときは突っ込んでいたはずだ

「え そんなんええよ…… 一緒に遊んでくれるだけで」

ま、俺はこの一カ月後に旅立つたんだけどね

一応その後は 刹那は剣の修行で木乃香嬢と遊ぶ時間が減つてしまい木乃香は麻帆良に引越し

刹那も中一の時に麻帆良に引越ししてきたが…………… ってわけだ

ドラゴニア・ナймレスの設定

ドラゴニア・ナймレス

普通の竜族のドラゴン 何故か八樹になついた

カモの脱獄を手伝ったためかなり仲がいい

八樹に言葉をしゃべれる魔法をかけられたためしゃべることができ
る、が少しミスを犯してしまい

関西弁になつた

大きさ カモの倍の大きいぐらい

技 ブレス中 普通のブレス 範囲はそんなに広くない

かまいたち 普通のかまいたち 言うほど強くない

フレイムウォーター 本人曰く自分の中では最強技 上位技で
あるハイドロバーニングを現在修行
中である

らいげき弱 普通の雷 本人曰く最弱技

ストロングクロー 爪に力を集中させて攻撃する ストロング

とか書いてるわりに威力はない

気迫のオーラ 唯一の防御技 つつてもほとんど無意味だった
りする

戦いの旋律 何故か自分に使えない

八樹「とまあ 紹介も終わつたし 字数稼ぎに何かしゃべるかど
うする？」

豪徳寺「どうすつか？」

山下「修学旅行編に入つたんだし京都について話してみたらどう？」

八樹「お！ それいただき！ とっえいうすまさえいがむら じゃあシネマ村について話すか 正
式名称は東映太秦映画村とっえいうすまさえいがむらだったはずだ」

山下「……………」

豪徳寺「…………… 続きは？」

八樹「… ない…………… もうあきらめて次回予告でもしよう

次回！ 八樹がついに魔法を！？ そしてハテル達も動き始める

修学旅行編 パート2 お楽しみに！」

八樹の他人に対する呼び方（前書き）

今後のために作ってみた

八樹の他人に対する呼び方

3 - A 生徒

1 相坂さよ 幽霊または相坂

2 明石裕奈 ゆーなまたは裕菜

3 朝倉和美 朝倉

4 綾瀬夕映 夕映

5 和泉亜子 亜子

6 大河内アキラ アキラ

7 柿崎美砂 柿崎（休日限定で美砂）

8 神楽坂明日菜 明日菜

9 春日美空 美空

1 0 絡繰茶々丸 茶々丸

1 1 釘宮円 釘宮

1 2 古菲 古

13	近衛木乃香	木乃香嬢（本人の前では木乃香）
14	早乙女ハルナ	ハルナ
15	桜咲刹那	刹那
16	佐々木まき絵	まき絵
17	椎名桜子	桜子
18	龍宮真名	龍宮
19	超鈴音	超
20	長瀬楓	楓
21	那波千鶴	那波
22	鳴滝風香	風香
23	鳴滝史伽	史伽（二人合わせて呼ぶときは鳴滝姉妹）
24	葉加瀬聡美	葉加瀬
25	長谷川千雨	長谷川
26	E v a n g e l i n e A ・ K ・ M c D o w e l l	
アナタシア（みんなの前ではエヴァンジェリン）		

27 宮崎のどか 宮崎

28 村上夏美 村上

29 雪広あやか いいんちよう

30 四葉五月 五月

31 Zazie Rainyday ザジ

教師

ネギ・スプリングフィールド ネギ

近衛近右衛門 学園長

タカミチ・T・高畑 高畑先生（昔はタカミチ）

瀬流彦 瀬流彦先生（休日はさんづけ）

ナギとその一行

ナギ・スプリングフィールド ナギさん（心の中では）

近衛 詠春 詠春さん

ガトウ・カグラ・ヴァンデンバーグ ガトウさん

アルビレオ・イマ アル

ジャック・ラカン ラカンさん

フィリウス・ゼクト ???

番外編 八樹の過去話（紅き翼）編 その1（前書き）

特に意味なく製作してみた あと八樹の年齢を都合上変更した

そしてドラマCDからパクりまくった（というかドラマCDを元に作った）ので間違いがあるかもしれません ちなみに次回はいづ先かな？

番外編 八樹の過去話（紅き翼）編 その1

とりあえずの風呂場

詠春「はゝ極楽極楽」

ゼクト「なかなかきもちのいい風呂じゃのう」

ナギ「ってあつち〜！」

ガトウ「あいかわらず風呂が苦手なようだな ナギ」

ナギ「苦手なんじゃねえ！ 嫌いなだけだ！」

八樹「ほとんど同じと思いますけど……？」

ナギ「うつせー！」

ジャック「ところで詠春 なんぞめがねをかけたままなんだ？」

詠春「いやあ、めがねがないと見えないんでな」

ジャック「そーいや詠春のめがねをはずしたところ見たことねえな」

ナギ「確かに 見たことねえな」

タカミチ「僕も見たいです」

八樹「面白そうだな 俺も見てみたいな」

ジャック「おい詠春！ めがねはずしてみろよ」

詠春「な！？ やべっ！ めがねは絶対にはずさん！ これはいわゆる俺の一部だ！」

ナギ「っていわれるとはずさせたくないや」

八樹「うんうん」

ジャック「となりやあ」

ナギ「突撃ー！！」

詠春「っておい！ うわっ やめろって！」

ナギ「いいからはずせ！」

詠春「うわ やべっ！？」

ジャック「よっしゃ！ めがねゲット！」

詠春「ひー！？」

八樹「……………」

ナギ「……………って詠春おまえ……………」

詠春「えっ？」

ナギ「やっぱめがね返すわ」

詠春「なんで？」

ナギ「いいからかけろって」

詠春「なんだよ急に」

ナギ「だ、だってよぉ」

ジャック「正直、めがねはずしたお前の顔は色っぽくて見てられん」

詠春「え？」

そんなこんなで明日への戦いに控えて少年の日に帰ったように仲間と楽しい日々を送った

そしてその夜 各自が材料を持ってきて詠春お得意の鍋を食すことになりましたと

詠春「よしみんな ちゃんと材料は持ってきたか？」

ナギ「おう！ 俺は最高級の肉を持ってきたぜ！」

タカミチ「僕は旧世界日本のおもちを持ってきましたよ」

八樹「俺はみんなに先を越されまくったから鍋用の魚を持ってきたぞ 生では食えないからな」

アルビレオ「私は新鮮な有機栽培の野菜を持ってきました この今朝とれたネギなんかは鍋にぴったりですよ」

ナギ「ネギかあ 俺、ネギは食べるけど芯はダメなんだ芯は あっちいしな」

ガトウ「俺は最高の豆腐を持ってきたぜ なんでも旧世界じゃヘルシーな食材として親しまれているらしい」

ゼクト「わしはそこに生えていたきのこを持ってきた」

八樹「いや、そんな怪しいもの持ってこないでくださいよ」

詠春「よし みんな良い食材を持ちよったな よし！ ここからは旧世界随一の料理人 詠春にお任せあれ！」

アルビレオ「でもまだラカンさんが来てませんが」

ガトウ「そっぴやクルトのやつも来てないな」

八樹「七樹（父）は別のところで遊んでいるけどね」

ナギ「いいじゃねえか そもそも呼んでねーし 筋肉ダルマとすました眼鏡はほっというて先に始めよ ぜ！」

ゼクト「よいのかのう？ あとでぐうたら言われても知らんぞ」

ナギ「んっふふっふ この旧世界の鍋料理はたまんねんだよなあ」

詠春「おいナギ！ 前も言っただが肉を先に入れるなよ」

ナギ「へいへい 分かってますよ料理人詠春様」

アルビレオ「ハッハッハ 詠春のように鍋にうるさい人を旧世界では鍋將軍と呼ぶそうですね」

ナギ「あゝでもやっぱもう我慢できねえ！」

八樹「あっ……………」

ゼクト「肉を入れてしもったの」

修学旅行初日 その2

八樹SIDE

無意味にエントランスにやってきた

刹那が何かしているようだが

「式神返しの結果？ 何かあったのか？」

「え……ええ 実はさっきいろいろありまして」

刹那から事情を聞く とりあえずなんか訳のわからない式神がやってきていろいろやりやがったそうだ

「あ」

「いたいた桜咲さん」

何故かネギと明日菜が来た

ハテルSIDE

「J・Mはどこに行ったんだよ？ ドラゴア」

「知るか そんなん っーかわいが知りたいわ」

宿を見つけることができず野宿となった二人と一匹

「とりあえず 木を器用燃やして一時的な家でも作るか」

「勝手に燃やしてええんか？」

「大丈夫だつて ばれなきや」

こうして俺が木を燃やそうとしたとき

シュシュッ

何かが俺の前を通った

「何か通らなかったか？」

「奇遇やな わいもそう思ったわ」

とりあえず何故か持っているヴィーキング・ソードを構えて今の通ったやつを追う

ちなみにヴィーキング・ソードとは、切断が目的の刀剣である。剣身の模様は蛇に似た表面処理が施されており、神秘的且つ魔力を備えたように見える。鋼がまだない時代であり、金属硬化により強度を持たせものの、戦闘中には刃は曲がる事もあった。

ヴィーキングソードは、北欧を中心に欧州に広まった。ヴィーキング、バイキングとも言われるが、正しい発音は「ヴィーキング」である。

それはさておきとつと追うことにしよう

八樹SIDE

謎の3 - A 防衛隊が結成された

そして俺は玄関を見張ることになったがぶっちゃけると敵に逃げられた

そして今は刹那とネギと明日菜と一緒に追いかけている

「ち・・・しつこい人はきらわれますえ」

ちなみにこいつは天ヶ崎千草という人物

「あ マズい 駅へ逃げ込むぞ」

「っていうか何よ あのデカいサルは！？ 着ぐるみ！？」

「いや、あれは関西呪術協会の呪符使いだったと思うぞ」

「というかあれでよく動けるなとつくづく思う」

「あの着ぐるみもただの着ぐるみではなさそうです 気をつけて！」

「人がいないな こりゃあ人払いの呪符があるな」

「とりあえず刹那が明日菜に人払いの呪符について説明中」

「そして俺達3 - A防衛隊は電車の中に入った」

「うわつと間に合った」

「ネギ先生！ 前の車両に追い詰めますよ！」

「待てーっ！」

「フフ・・・ほな二枚目のお札ちゃんいきますえ」

「あ、アレはちょいマズい」

「お札さんお札さん ウチを逃がせておくれやす」

「ドパッ！」

予想通り水攻めか　しかし予想外な速さで車内は水でいっぱいとなった

「ホホ・・・車内でおぼれ死なんよーにな　ほな」

ぶっちゃけまずい状況　だが剣は旅館に置いてきたし　ネギはこんな中で魔法なんて唱えられるわけないし　刹那にがんばってもらえないとな

そうこうしてるうちに刹那が斬空閃をはなちドアをぶち破る

はあ　このドアは俺が修理するんだろうな

「あれ」

ようやく車内から脱出した俺達　この先どうなるだろうな

修学旅行初日 その2（後書き）

山下「そろそろゲストでも呼ぶ？」

八樹「そうだな ぶっちゃけやることはないがゲストでも呼ぼうか
ちなみに豪徳寺は応援団の練習中だからいないぜ 今日のゲスト
はあの後どうなったか良く分からないフィリウス・ゼクトさんです
！」

ゼクト「ずいぶんひどい紹介じゃのう」

八樹「別にいいじゃん それしかないんだし な？」

山下「結局何するの？」

八樹「めんどくさいし仮契約について話すかちなみに俺の仮契約し
たヤツは以下の人物だ」

ハテル・テル

J・M

???

???

???

ゼクト「ほお 五人と仮契約をしていたのじゃな」

山下「そのうち三人はまだ不明だけどね 次はどうする？」

八樹「もうネタがないよ せっかく大物ゲストを呼んだのに すま

んな
以上で終わりだ」

雑談!!

八樹「最近やることないな」

山下「そうだね どうする?」

八樹「そうだな……豪徳寺もないし今日は二人かな?」

山下「多分そうだろうね」

???「ちよつと待ったー!!」

八樹「Who?」

2（セクンドウム）「てめえ! 俺を忘れんじゃねえよ!」

八樹「またまたすごいのがきたな この調子でデユナミスでも呼ぶか あーあー デユナミス さつさと来い! あ? お前とは敵だから無理だと? 知るか これは敵も味方も関係ないんだよ!」

2「結局来るのか あいつは」

八樹「色々あるから無理だつてさ」

山下「というか2つて消えたんじゃないの?」

八樹「いいんだよ ちなみにゲストはこういう変なヤツしか呼ばないからな 多分」

山下「じゃあ 何をする？」

八樹「だいぶ先だが麻帆良祭の話でもしよう これはネタばれの可能性ありだから飛ばしたい人は飛ばしてくださいな」

2「ほう 大体六ヶ月くらい先のことだな しかもISの方も更新してないし 遊戯王なんて二週間ごととかいいながらあのあと更新してないからな」

山下「ISの方は来年から更新再開するって作者は考えてるらしい」

八樹「んじゃまず 武闘会には出るぞ 展開は結構オリジナル的だけど」

2「あの魔法ばんばん使っていた大会か」

山下「そうそう カイザーナックルで殴られて一発K・Oされたあれだね」

八樹「じゃあ次はっとライブだな」

山下「でこぴんロケットのライブのことかな？」

八樹「おお 確かバカテスの方の小説でバンド組んでいる設定だったからそれを引き継いで
いわゆる顧問になることになった もう言うことがないから麻帆良祭の話は終了だ」

2「次は何するんだ？」

八樹「さあ？ 特にないからオリジナル設定の話でもするか
ぶっちゃけ豪徳寺以外山下他二名は部活に入っているか不明だから
勝手に部活を作ってみた」

山下「その部活とは？」

八樹「武術研究部ってことにしておいた 顧問は一応俺だ」

2「具体的には何をするんだ？」

八樹「その名のとりの部活だ」

山下「じゃあ 次回予告をやるよ 結局魔法を使わなかった八樹
果たしていつ魔法を使うのか？

次回で修学旅行一日目終了！」

修学旅行初日 その3 (前書き)

どうせ意味ないけど感想制限をなくしました

修学旅行初日 その3

八樹SIDE

天ヶ崎は逃走を図った

「あ 待て!!」

「せ 刹那さん 一体どういうことですか!？」

「ただのいやがらせじゃなかったの!？ 何であのおサル(？)なのか一人を誘拐しようとするのよ!？」

「どうせ関西呪術協会の中に木乃香嬢を東の麻帆良学園へやったことを快く思わなかったやつがいるんだろ？ 刹那」

「ええ おそらくやつらはこのかお嬢様の力を利用して関西呪術協会を牛耳ろうとしているのでは・・・」

「え・・・?」

「な・・・なんですかそれ!？」

「私も八樹先生も学園長も甘かったといわざるえません」

確かに完全に油断した まさかこんなことになるとはな

旅行中に襲ってくるとはね

「しかし元々関西呪術協会は裏の仕事請け負う組織このような強硬手段に出る者がいてもおかしくなかったのです」

「おつとここにも人払いがあるぞ？」

計画的な犯行と見て間違いないな

「くっ……私がついていながら」

刹那が先に行った

「フフ……よーここまで追ってこれましたな」

「おサルが脱げた!？」

あんなでかいサルがいたら怖いよ

「そやけどそれもここまでですえ 三枚目のお札ちゃんいかせてもらえますえ」

おおつとこれはまずい

「させるか!」

刹那が止めにかかるうとするが……

「おれさん おれさん ウチを逃がしておくれやす 喰らいなはれ
三枚符術 京都大文字焼き」

おーおー すごい技だねえ

「うあっ」

「桜咲さん!!」

これは流石にこいつらには荷が重いか？

「ホホホ 並みの術者ではその炎は越えられません ほなさいなら」
これくらいなら俺は超えられるが まあ、風の魔法はあんまり覚えて
ないしネギに任せよう

「ラス・テル・マ・スキル・マギステル！ 吹け 一陣の風 風花
風塵乱舞!!」

ネギの魔法で炎が消え去った

「な・・何や」

「逃がしませんよ!! このかさんは僕の生徒で……大事な友
達です!」

おお いいこと言っねえ

「おい刹那 あつちに神鳴流の剣士がいるぞ」

なんか さっき見えた

「本当ですか!？」

「ああ マジだ」

「契約執行180秒間!! ネギの従者 神楽坂明日菜!!」

「桜咲さん行くよ!」

みんな行つた

ぶつちやけ俺の出番はなさそうだな

と、俺はこのとき思っていた しかし現実はそう甘くない

「おおっと そうはさせないぜ 八樹」

この声はもしかや……

「なんだ カップラーメンも作れない石井和則いしいかずのりかよ」

石井和則 俺と仮契約したやつで 遠当て使いだ ぶつちやけ豪徳寺よりは弱い

俺の仮契約グループ内で最弱の存在で唯一の得意なことといえば

かなりタフなことだな

体力はかなり高いと思う

「それは言わないでくれ！」

そして無駄にテンションが高いやつだ

「で？ 何故そっちの味方になった？」

「こっちにも事情があるんだよ！ 行くぞ！」

「ああ かかって来い！」

修学旅行初日 その3 (後書き)

豪徳寺「結局終わらなかったし 魔法も使わなかったな」

八樹「バカテスの更新で疲れたんだよ まあ次回は確実に使う」

今年最後の雑談

八樹「いよいよ2011年も終わりだな」

豪徳寺「とは言ってもほとんど本編進んでないけどな」

山下「そうだね」

八樹「今日のゲストは前回呼べなかったデュナミスだ」

デュナミス「ふう 何故こんなことを……」

八樹「ぶっちゃけまたやることがないんだよね」

デュナミス「なら帰っていいか？」

豪徳寺「いやいや だめだぞ」

山下「そうそう」

デュナミス「あー わかったわかった」

八樹「じゃあ なんかやるか まずは新キャラの石井和則の紹介からだな」

石井和則 23歳

昔は雑魚だったが 八樹と仮契約をした

山下「早くない！？ 終わるの」

八樹「知るか つーかそろそろ仮が終わる時期だから とつととパーティーを選ばないといけないんだよな」

豪徳寺「なんか俺より弱いとか言っていたが」

デュナミス「ああ 魔法世界でなんかカードを見たと思えばこいつか」

八樹「なんだ 見たのか？」

デュナミス「それらしいやつをな ま、無視したが。 八樹の仲間なら消しておけばよかったな」

八樹「消すなよ」

山下「まあ、落ち着きなって」

豪徳寺「それは置いといて 何をする？」

八樹「せっかくデュナミスをつれてきたし飯を大量に作ったから宴会でもするか」

デュナミス「おい、現実世界の飯は食えんぞ」

八樹「大丈夫大丈夫ちゃんとお前でも食える飯だから 多分ね」

デユナミス「今、たぶんとか言わなかったか？」

八樹「気のせいだ さあて 飯の紹介だ」

クリームシチュー 4人前

コロッケ およそ10個

謎ジュース 1リットル

アシュレ 5人前

ソーセージ 5本

野菜炒め 2人前

珍ラーメン ?人前

魔法世界の肉を使ったハンバーグ 4人前

???からとつたから揚げ 17個

毒キノコのスープ 3人前

豪徳寺「謎ジュースって何だよ？」

八樹「簡単に言うとミックスジュースだな 旧世界のフルーツをほ

とんど使ったからな はつきりいつてあんまりおいしくない」

山下「じゃあ 珍ラーメンは？」

八樹「フカヒレとキャビアとフォアグラのいわゆる世界三大珍味を使用したラーメンだ」

デユナミス「とりあえず????とはなんだ？」

八樹「それは秘密だ なかなかうまかったぞ」

豪徳寺「一番突っ込みたいのは毒キノコスープってなんだよ!」

八樹「ああ、 ツキヨタケを大量に使ったスープだ ちゃんと魔法で毒は抜いてある まあ、めちやくちやまずいが」

山下「まあ……いつか じゃあいただきます」

豪徳寺「とりあえずいただきますっ」と

バクバクムシャムシャ しばらくは食事タイム

八樹「ふう うまかったな」

デユナミス「不本意だがかなりうまかった」

八樹「一応ありがとな じゃあ適当に飯を食ったし 最後の締めでもするか」

豪徳寺「それではみなさん」

山下「来年もこの小説をよろしく！」

デュナミス「我が出番はまだまだ先だろうけどな」

八樹「以上 今年最後の更新でした さりげなくちょうど20話だ
けどね」

修学旅行初日 その4（前書き）

今回は言つほど長くありません ま、もともと短いけどな

修学旅行初日 その4

八樹SIDE

「爆焰弾！」

「おわつと 危ね！」

石井の攻撃をぎりぎりかわす

あれはどこかにぶつかると爆発する危険な技だ

前と比べると技にキレが出てきてる

「結構成長したじゃないか？」

「俺もあの後修行してきたんだよ」

そーか よくがんばったと言っておこつ

「たあー！」

何が起こった？

あつちの戦いを見ると明日菜が猿鬼に攻撃した あのアーティファクトは………

「おいおい あれって………」

「ハマノツルギだな 俺も実物は見たのは初めてだと思っ それよ
りこっちはこっちで戦うぞ」

「うん？ ああそうだな」

あいつの技は爆焰弾と億炎奇と跋扈兎衷と斥候弾だったはずだ

「アデアット！」

おおっと 向こうが仮契約カードを使いやがったな

称号は忘れたが能力は確か 気を出せばどんな攻撃も防げるという
反則級のカードのはずだ

3分23秒しか使えないけどね

「ふゝ まずいなあ」

とりあえず気合で防御して効果が切れるのを待つしかない

「へぶっ」

あれ？

「おい 雇い主がやられたぞ」

刹那の百華なんちゃらかんちゃらで天ヶ崎がやられた

「あーあ 雇い主がやられちゃあ 戦いはできんな あばよ！」

石井はどっかに消え去った

「こっちは無事に終わったが木乃香嬢は大丈夫だったか？」

「そういえばあいつ薬や呪符を使うとかいっていたな このか姉さんは大丈夫か！」

見る限り寝ているだけだから無事だと思うが

「このかお嬢様！ お嬢様！ しっかりしてください！」

「ん……」

おっと木乃香嬢が目覚めたようだ

「……あれせつちゃん……？」

そっぴや石井から何故あつちについているのか聞いていなかった

「そっぴや 八樹の兄貴 あの石井とかいうやつ知り合いか？」

「一応俺の仲間だ 何故あつち側についたかはわからんが」

こうして修学旅行一日目は終了した

修学旅行初日 その4（後書き）

次回から二日目

雑談！？

八樹「というわけでまた雑談だ」

山下「いやいやいや、最近雑談多いよね？」

八樹「ネタが思いつかんだ 学園祭や魔法世界編はほぼできているというのに」

豪徳寺「何故そんなに後のやつができて修学旅行編ができないんだ？」

八樹「さあね じゃあ今回のゲストは今更過ぎる中村達也だ」

中村「よっしゃ！ ようやく俺の出番だ！」

八樹「とは言ってもまたまたネタがないので石井和則のキャラ設定という」

石井和則 23歳

遠当て使い とある理由で八樹の仲間になった

主な技

爆焰弾 当たると爆発する 本人曰く最強技

億炎奇 炎の玉を相手にぶつける

跋扈兎衷　???

斥候弾　あんまり強くない

中村「見事に適当だな」

豪徳寺「たっちゃんの言う通りだな」

八樹「それはおいといて実を言うと俺は紅き翼から脱退した（七樹が死んで二ヶ月くらいで）後にとあるチームを作ったんだよな　チーム名は黒き霧だったはずだ今は解散状態だけだ」

山下「ちなみにどれくらい活動していた？」

八樹「大体一年ちょっとかな　ちなみにメンバー全員と仮契約をしている」

豪徳寺「っーか仮契約って口付けしないといけないんだよな？」

中村「じゃあ　男同士でキスしたってことか!？」

八樹「さあて　どうだろうか？」

山下「見事にスルーされたけど次にいこうか」

八樹「次はネタばれとして魔法世界編について話すか　ネタばれするやつなんて嫌いだ！　お気に入りから消してやる！　とかいう人

はどうぞ消してください」

中村「当然だけど俺たちって留守だよな？」

八樹「まあそうなるわな 多分な ちなみに俺はみんな（白き翼）より早く魔法世界に行くぞ」

豪徳寺「何故だ？」

八樹「指名手配犯になりたくないからだ」

山下「それで早くいくんだね……」

八樹「一応ハテルとJ・Mといっしょに行く予定だ あとオリジナル魔法として現実から魔法世界に行く魔法を使っていくからなとまあ話せる内容はこれくらいだな」

豪徳寺「おいおい まだ終わるにははやいぞ？」

八樹「うーん 何をしようか？ そうだな…… オリジナルはバカテスで散々な目にあったからオリジナルは多分やらないからなそうそう重大なことを言い忘れていた」

中村「重大なこととは？」

八樹「この話ではデュナミスが原作崩壊してるんだった」

山下「デュナミスってアーウェルンクスの仲間の」

八樹「そう あれだ ついでに作者の一番好きなキャラだったりす

る」

豪徳寺「えらくマイナー？なキャラが好きなんだな作者は」

八樹「それはバカテスとかISとかAngel Beatsでも同じだぞ 作者は基本マイナーキャラが好きになることが多いらしい」

山下「そろそろ終わりじゃない？」

中村「そうだな そろそろ頃合いだろ？」

八樹「ん」 そうだな 早いがこれで終わるか ちなみに次の雑談はメジャーなゲストを呼ぶと思うぞ」

修学旅行二日目その1

八樹SIDE

二日目 ネギ先生は5班と一緒にまわることになった

そして俺も何故か付き合わされた 何故かって？

そう、のどかの告白に付き合えとか言われてさ

それくらいはまあ、構わんのだが

そして場所は東大寺

ちなみに東大寺とうだいじとは、奈良県奈良市雑司町にある華嚴宗大本山の寺である。

金光明四天王護国之寺きんくわうしやうしほのくわいのてらともいい、奈良時代（8世紀）に聖武天皇が国力を尽くして建立した寺である。「奈良の大仏」として知られるるしやなぶつ盧舎那仏を本尊とし、開山（初代別当）は良弁僧正ろうへんそうじょうである。

奈良時代には中心堂宇の大仏殿（金堂）のほか、東西2つの七重塔（推定高さ約70メートル以上）を含む大伽藍が整備されたが、中世以降、2度の兵火で多くの建物を焼失した。現存する大仏は、台座（蓮華座）などの一部に当初の部分を残すのみであり、現存する大仏殿は江戸時代の18世紀初頭（元禄時代）の再建で、創建当時の堂に比べ、間口が3分の2に縮小されている。「大仏さん」の寺として、古代から現代に至るまで広い信仰を集め、日本の文化に多大な影響を与えてきた寺院であり、聖武天皇が当時の日本の60余

か国に建立させた国分寺の中心をなす「総国分寺」と位置付けられた。

東大寺は1998年に古都奈良の文化財の一部として、ユネスコより世界遺産に登録されている。（ウィキペディアより抜粋）

「あっ・・・あの　　ネギ先生　　ッ！」

「はい？」

おおっといよいよ来るか？

「先生　　！！　　わっ　　わわ　　わたし　　大・・・す・・・すき・・・」

かなりたどたどしいな　　普通はこうだろうけど

「大仏が大好きで・・・」

「へえー　　渋い趣味ですね」

あれれ？　　というか何故大仏なんだよ？

それはさておき二人はおみくじをすることになった　　ちなみに俺は小吉だった

「あのそのっ・・・　　私・・・ネギ先生が　　大・・・大吉で・・・！」

「あ　　はい　　おみくじ引きますか？」

「いえっじゃなくて　大吉が大好き・・いえ大仏・・・」

「うえーん　大凶でした」

そしてまた告白できなかったのどか　しかも大凶なんてものを引く
なよ　ネギ先生

「あ　宮崎さん　ホラ　大仏の鼻と同じ大きさの穴ですよ　くぐり
抜けられれば頭が良くなったり願いがかなったりするそうです」

「えっ！？　願いが・・やります！　くぐります！」

その穴なら前に一度くぐったことがある　えゝつと確かこのとき何
か願いがあつたんだよな　なんだっけ？

「お　お尻がハマっちゃいましたあつ」

「え　　っ！？」

ええ！？　あれにはまるやつなんか初めて見たぞ

「大丈夫ですか　引つ張りますから」

「へうっーすいません先生」

というかなんか疲れたからなんか飲むか　自動販売機はどこかなつと

数十秒後戻ってくるのどか達がいなかった

今後のお知らせ？

八樹「とつとと始めるぞ」

山下「また雑談？」

八樹「いや、今回はちょっと違うぞ」

豪徳寺「何をするんだ？」

八樹「題名の通りだ」

山下「今後お知らせ？」

八樹「ああ ぶっちゃけると更新速度が若干落ちることだ 週3回更新できればいいほうだと思ってくれ ちなみにこういう雑談系は単行本一冊分が終わることに一回いれるからね 多分」

山下「それだけ？」

八樹「そう言うだろうとおもってなんかネタを持ってきたぞ まあその前にゲスト紹介だ
今回のゲストはなんと！ ラオ・バイロンだ！」

豪徳寺「だれだよ そいつは？」

八樹「単行本22巻の最初の方に出てくるやつだ」

ラオ「まあそういうこった よろしくな」

豪徳寺「というか次はメジャーなキャラを呼ぶんじゃなかったのか？」

八樹「いやぁ 本当は朝倉を呼ぶ予定だったがキャンセルされた」

山下「へえ」 結局何を始めるの？」

八樹「なーにちょっとしたことだ 多分すぐ終わる ちなみにどうでもいいが作者はチヨロQH3というゲームにはまっている」

ラオ「なんだよそれは？」

豪徳寺「たしか発売日は2002年の12月12日発売のゲームソフトだな」

八樹「まあそれは置いて やることは必殺技を決めることだ」

豪徳寺「だれのだよ？」

八樹「お前ら四人組のだ 豪徳寺はもう真・漢魂だし中村はかめはとかあるが大豪院と山下に至っては技すら出してないからな」

ラオ「つーか俺を呼んだ意味はあるのか？」

八樹「悪い ぶっちゃけあんまり意味ない」

ラオ「おい！ なら呼ぶなよ！」

八樹「別にいいじゃねーか 自由拳闘士なんだからさ」

ラオ「暇だったからべつにいいけどよ」

八樹「ならとつと必殺技でも決めるぞ　まずは山下からだな」

山下「うゝん基本寝技が得意なんだけどね」

八樹「なら腕挫十字固うでひしぎじゅうじがためでいいか」

山下「できるけど決めるの早すぎじゃないか!？」

豪徳寺「ちなみに腕挫十字固とは格闘技で最も有名で頻度多く極る関節技。関節技9本のひとつに数えられる。

相手の肘関節を逆に伸ばして極める、いわゆるアームロックの一種である。柔道、柔術、サンボ、総合格闘技、プロレスリング　合気道（一部道場）などで使用されるほか、世界各国の軍隊などにおいても徒手格闘術の技として訓練されている。（ウィキペディアより）

「

八樹「なら次は大豪院だな　実際ほとんどセリフもないし戦いを見た限りでは拳法使いだから
うーん……とつとけん 螭螂拳でいつか」

ラオ「適當すぎるな　お前は」

豪徳寺「ちなみに螭螂拳は俺もあんまりわからないんだよな」

八樹「おいこれでも武術研究部の部長だろ？」

豪徳寺「俺でも分からないことだっ てたまにあるんだ」

八樹「ま、俺も分からないんだけどな 名前くらいしかわからん」

ラオ「よくわからんが終わりか？」

山下「たぶんね」

八樹「そうだな 短いがまあいいか ちなみに次こそはメジャーな
キャラを呼ぶことにするよ」

豪徳寺「それじゃ さよなら!」

修学旅行二日目 その2 そして三日目その1

八樹SIDE

二日目の夜十一時

結局のどかはネギ先生に告白をしたらしい 返事はまだもらってないそうだが

そして何故か朝倉に魔法の存在がばれてしまった

朝倉曰くネギが猫を助けようとしたときに魔法を使用 その後ほつきで空を飛んでいったらしい

しかもその後朝倉がどこに行ったかわからない

報道部にばれたら普通にアウトだが朝倉が黙っていると言ってくれたらしい

今日は見回りの命令はないから寝よう おやすみ！

三日目

朝食の時 何故かのどかが仮契約カードを持っていた 夜になんかネギ先生の唇を奪え的なゲームでのどかがネギの唇を奪い何故か仮契約が成立したということだ

「ちょっとどうするのよネギ！ こーんなにいっぱいカード作っちゃって 一体どう責任とるつもりなのよ！」

「つーか分身にキスしてもカード出るんだな？」

俺は逆にこっちの方に驚いている カードの出る基準ってなんだろうな？

「えうう！？ 僕ですか！？」

「まあまあ姐さん」

「そーだよアスナ もーかったってことでいいじゃん」

「朝倉とエロガモはだまってる！」

「はい……」

「エロガモ！？」

いや、アンタ女性の下着を盗んだんでしょ　ドラゴアが脱走させたらしいが　そういえばあいつら来るのかな？

ハテルSIDE

結局二日前に追っていたやつを見失ってしまい　現在放浪中の二人と一匹は現在森の中にいる

いまだに出れないんだよな

「おい　茂みの奥にだれかいるぞ？」

J・Mがそう言う　ん？　何々？　茂みの奥をのぞくと白髪の少年がいた

「で？ どうするんや？ あの少年に道をきくんか？」

「うーんそうだな 少年に聞くのはなんだか変だがまあいいか
と
りあえずお前は消えておけよ」

「了解や！」

八樹SIDE

俺たち（ネギと明日菜とちびせつな）は無間方処の呪法で閉じ込め
られてしまった

そしてついさっき犬上小太郎とか言うやつと戦った

そして今も ザザザザザザ おわつと狗神が来やがった

「気合防御」

とりあえず受け流す

にしても初の防御技は気合防御かよ 悲しいな……

「で？ どうするんだよ アルベール？ このままじゃやられるぜ
」？」

「確かに 下手すりゃ大怪我どころじゃすまねえ」

とりあえずこの狗神を何とかしよう 犬上小太郎の方はネギに何とかしてもらうとして

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8312x/>

魔法先生ネギま！ 例のやつがやってきた？

2012年1月10日22時48分発行